

| | |
|------------------|---|
| Title | 食品工業における技術戦略 |
| Sub Title | |
| Author | 寺田文明(Terada, Fumiaki) 古川公成 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1991 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1991年度経営学 第858号 複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0858 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

| | | |
|------|---------------------|-------------------------------|
| 学生氏名 | 寺田 文明 (森永乳業株式会社) | 主査 古川 公成 副査 小野桂之介 和田 充夫 |
| 所属 | 古川 公成 研究室 | |

食品工業における技術戦略

食品工業は、食品卸小売業、外食産業、及び農業とともに国民に食料を安定的に供給するシステムとして、その使命を果たしつつ、大いに発展してきた。この中で、食品工業ルートは全体の約5割を占め、その地位は年々高まっている。また食品工業は、加工食品の提供を通じ、食料事情及び栄養状態の改善、適性価格での食料品の提供、ライフスタイルの変化への関与等により、国民生活に大いに貢献してきた。これらは、いずれも食品工業の技術革新によるところが大きい。

本研究の目的は、食品工業において研究対象の業種をできるだけ広く設定し、経営戦略の技術的側面を検討する上での基礎的な情報を収集することにある。さらには、収集した情報の分析により、食品工業技術の特質の検討、そして、経営者にとって有益なメッセージを導出することである。

研究方法としては、食品工業全般及び食品工業技術の研究を主に文献調査により行った後、研究開発部門全体を見ておられる方へのインタビューにより行った。内容としては、現在の技術内容と同時に、その歴史的発展にも重点をおいた。

今回の調査では、食品工業にインパクトを与えた技術はプロセス技術が多くそのほとんどが昭和50年以前に導入されたこと、各業種にとってのキーテクノロジーは、生産装置等のハード技術よりも品質管理や異形状取扱い技術等のソフト技術が多いこと、食品の特質からくるいくつかの要素が技術の特徴及び開発体制に影響を与えていること等が明らかになった。また、アバナシーら多くの研究者により他産業で行われている技術発展のモデル等は、対象物の食品の特質からくる攪乱要素を削除してみれば、食品工業技術に対しても応用可能であるとの認識を得た。このような、食品工業における技術の特質についての検討を行った後、経営者が戦略の経営的側面を見る時に有益と考えられる、7つの提言を行った。